

【会社のプロフィール】

○当組合のある蒲生郡日野町は、大津市の東方約40kmの地点にあり、鈴鹿山系を背にした湖東平野の最深部に位置し、所有林（1,172ha、日野町の森林面積の約20%）の殆どは、日野川の源流である綿向山（標高1,110m）を主峰とする付近一帯の山林で占められ、組合員数は約1,500人に達しています。

所有林のうち、人工林は約50%の536ha、そのうち約70%がヒノキ林で占められており、完満通直な柱材の生産を主体としています。

また、「組合に関わる人々の経済的社会的地位の向上を目指すとともに、健全な森林経営を通じて地域環境の保全に貢献します」という組合の基本理念のもと、平成22年には、「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を積水樹脂(株)およびサントリーホールディングス(株)と締結し、琵琶湖の水環境を守る森林づくりに努めています。更に平成29年12月1日には、SGECの認証を県下で2番目に受けるなど、持続可能な森林経営にも取り組んでいます。

【組合の歴史】

○当組合が所有している森林は、その昔付近集落の住民が柴や草刈り場として利用されていた「入会山」でした。その後、幾多の変遷を経て明治22年には、「日野町」「西大路村」「鎌掛村」の1町2ヶ村山林組合として発足しました。この頃より山への植林が始まり、スギ・ヒノキ等が本格的に造林されました。

昭和30年の町村合併により、一時期「財産区」と称した時期もありましたが、昭和39年3月に「綿向生産森林組合」として発足し、現在に至っています。



風格のある事務所

所有林遠景
(綿向山)



整備されたヒノキ林



組合の作業状況

